

説 教

「オープン・チャーチ礼拝」 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2020年7月19日（月）

主 題：「一歩、踏み出す人生へ」

テキスト：ピリピ3章13－16節 （中心聖句：14節）

### はじめに

- ・今日は、北浜チャーチの「オープン・チャーチ礼拝」です。オープン・チャーチ礼拝とは、教会に初めてこられた方にも分かるメッセージをお届けする礼拝です。ですから、どうぞ心を開いて気軽にお聞きいただきと思います。
- ・私たちの人生では、つらいこと、悲しいこと、耐えられないような出来事があります。
- ・「コロナ」によるパンデミック（世界的大流行）は、たいへんな被害をもたらしています。次の数字は6月23現在のものですが、次のようです。日本国内だけで感染者数1万7千974人、死者数974人です。これは約4週間前の数字ですから、今はもっと増加していることでしょう。
- ・米国では日本と比較にならほどの感染者数、死者が出ています。感染者数227万人、死者数12万人を超えました。ブラジルでは医療は崩壊し、コロナ死者数5万人を超えました。しかもコロナ禍の収束を待たずに、ブラジルは経済を再開しました。今後、どうなるのか実に心配です。
- ・このようなパンデミックの中で、感謝なことに、日本では医療関係者が頑張ってくれました。そして国民も頑張り、自粛につとめました。子どもも、大人も不要不急の外出を避け、自宅待機や等に協力しました。その結果、コロナウイルスを抑えることに成功したと言われています。
- ・しかし一方では、さまざまな問題が生じていることも事実です。たとえば、「コロナ疲れ」、「コロナストレス」、「コロナ倒産」、「コロナ疎開」、「コロナ離婚」などなどです。コロナ禍は、まだまだ続く問題であります。
- ・私たちは、悲しい辛い出来事がつづきますと、どうしても気分は落ち込みます。そして時には、それが原因で体調を崩す場合もあります。ですから、私たちの気持ちの持ち方は大切です。
- ・では、どのように気持ちを持てば良いのでしょうか？ 今日は人生で大切な「生き方」について、考えてみたいと思います。

- ・それは、人生を立派に生き抜いた 1 人の人、パウロの生き方から次の 2 点を学びましょう。

## 大切なポイント

### 1. ひたむきに前に向い走る

#### 1) 前に向かい生きる

- ・先ず、大切なことは前に向かって生きることです。  
初代教会時代の伝道者であったパウロは、私たちの人生を競技場で走るランナーにたとえました。そして、次のように言いました。

3:13 **ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、**

- ・皆さん。「後ろのものを忘れ」とは ⇒ 過去にこだわらないことです。私たちは過去を取り戻すことはできませんが、過去に学ぶことは可能です。過去の出来事から、もし学ぶことができれば、それは自分にとってプラスとなります。聖書は過去の出来事から、前に向かい学ぶことを勧めています。
- ・ところで、物事の考え方には積極的に考える思考と、消極的に考える思考があります。何を考えても消極的で、なかなか前に進めない人がいます。その人は、消極的になる何かの原因があると思われれます。
- ・しかし、どんなに暗く辛い状態であっても、前方に光が見えれば、人は前に向かって走ることができます。

#### {例 話}

- ・長く寒い冬がやっと終わり、「春」がやって来ます。青葉が美しい新緑の季節です。青葉、若枝を見ると、気持ちまで高揚してくるものです。青葉には木の「勢い」を感じさせるものがあります。
- ・実際、植物は日照時間が長くなるにつれて、活発に「光合成」を行うそうです。炭酸ガスを吸収し、私たちに必要な「酸素」を提供してくれます。それは恵みです。だれもお金で買うわけではありません。光合成は、不思議な現象です。太陽の光が作用すると、草木は自然に「光合成」を行います。無償で与えられる「恵み」です。
- ・皆さん。聖書の神は、その太陽の光を造られたお方です。神は天と地と万物を造られたお方です。ですから草木や花、私たちが自然界で触れる万物は、神の手によって造られました。

#### 2) 創造神がおられる

- ・私たち人間も神によって造られた存在です。これを被造物と呼びます。

しかし、私たちは万物を造られた神について聞かされていません。したがって、神について知らない、また分からないというのが事実であります。

- ・私たちは万物を造られた神が分からなくても、人間の手が届かない「大いなる存在」があることは知っています。そこで、人間は神になぞらえて宗教の神々を作りました。それが日本にある「八百万の神々」です。その意味で、私たちには宗教心があると思います。
- ・例えば、日本は自然災害が多い国の1つです。地震、台風（水害）は例年襲ってきます。今回、世界各地で発生した「コロナウイルス」パンデミックは、人間の手が届かない自然災害であると思います。
- ・世界ではすでに約1千万人以上が感染したと言われます。そして今なお、南米、アフリカでは「コロナウイルス」は広がりつつあります。21世紀、医学が高度に発展したにもかかわらず、ウイルスに対して治療薬ワクチンは、まだ完成していないのが現状です。多くの人々が、人間以上の存在（宗教）に助けを求め祈っています。人間には宗教心があるのです。
- ・「コロナ」とはラテン語で「冠」という意味です。コロナウイルスが冠のような形をしているところから、このように呼ばれるようになったそうです。冠は権威と栄光の象徴であります。でも、この冠は人を死に至らせる恐ろしいものです。
- ・しかし、神は私たちにもう1つの冠、「栄光の冠」を備えておられます。それは希望に満ちた「栄光の冠」です。その冠は、人生の旅路を忠実に走る人にものみ与えられるものです。

### 3) 栄光の冠がまっている

聖書は次のように教えています。

そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠をいただくこととなります。 I ペテ 5:4

- ・「栄光の冠」は、私たちに明るい未来を約束してくれます。それは前方に見る光のようです。そうです。私たちの人生には明るい光があります。世の中がどんなに暗くなっても、聖書は前方に光があると教えています。
- ・光の源であるお方は、創造神です。今から約2千年前、イエス・キリスト様は次のように言われました。

8:12 「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」 ヨハネ

このことばは、私たちに希望の光を与えてくれます。

[私は10代のとき、この神を知りました。それ以来約60年、神は本当に不真実なものでしたが、神は真実なお方でした。聖書が示すように、今日に至

るまで、私の人生を先導してくださいました。

- ・パウロは、希望の光であるお方と共にいましたから、次のように言いました。

3:13 **ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、**

人生をこのように走ることができる人は、なんと幸いでしょう。

- ・ここに、私たちが生きる道があります。次に私たちにとって大切なことは、目標を目指して走ることです。

## 2. 目標（栄冠）を目ざして走る

### 1) 栄冠を目指し走る

- ・パウロはこう言いました。

3:14 **キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。**

- ・パウロの目標は、神から栄冠を得ることでした。皆さん、私たちの人生は、いったいどこに向い走っているのでしょうか？ あなたは今、どんな走り方をしておられるのでしょうか。そして、どこに向かっておられるのでしょうか。私たちの人生は一度（一回）です。リピートは不可能です。
- ・聖書は、神のおられる御国に向かう人生には、栄冠が待っていると教えています。人生のマラソンを神とともに歩む人に、神は栄冠を備えておられます。栄冠とは、価値ある貴重なもの、宝物です。

{例 話} 「証 し」ボブ・ウィーランド氏

- ・ボブさんは、ベトナム戦争で地雷を踏んで吹き飛ばされ、腰から下をなくしてしまいました。帰国した彼は、体育教師の資格を取り、ウエイトリフティングに挑戦し、ついに腕で歩いて、アメリカ大陸を横断します。4500 キロメートルを、3年8ヶ月と6日かけて歩き通しました。その間、貧しい人たちのために集めた募金は、31万ドルに達しました。
- ・そのボブさんが、今から約18年前に来日されました。そして「タートル（亀）マラソン」に参加しました。このマラソンは、実にユニークです。健常者と障害者が同じコースを走ります。その年は、4,500名の参加がありました。距離は、ハーフマラソン、10キロ、5キロとありました。各々が自分の実力に応じて距離を決めてエントリーします。
- ・ボブさんは5キロにエントリーしました。主催者側がすべてを1時半に終わりたいという意向でしたので、ボブさんは早朝スタートとなりました。午前5時、荒川の河川敷コースのスタートラインにボブさんが現われました。あたりはまだ暗闇です。ボブさんを応援するクリスチャンたちが10名前後集まり、

彼のためにお祈りしました。

- ボブさんの出で立ち、特別に作られた靴を両手にはめていました。両手で体を持ち上げて歩くので、これがクッションの役割を果たします。お尻には、底の部分が牛革で出来た尻当てをつけています。
- 5時15分、いよいよスタート。一度に進むのは、約20歩前後です。距離にすると約15メートル。それくらい進むと、手につけた心拍計がブザーを鳴らします。心拍数が140を超えると危険ゾーンだそうです。160になると、致命的になります。心拍数が収まるのをしばらく待ちます。ここで、驚くべきことは15秒から20秒で、心拍数が120台に下がることです。驚異的な心臓です。彼が5キロを歩くのを一部始終目撃するならば、涙が出るほど感動します。
- 結論から言いますと、彼は午後2時前にゴールしました。途中開会式による中断がありましたので、それをさし引くと、7時間21分をかけて5キロを歩き通したことになります。感動しました。
- ボブさんの走り方に注目すると、次のことが挙げられます。
  - ① 彼は一切後ろを振り向きませんでした。普通の人なら、どれくらい走破したか、振り返りたくなると思います。しかし、彼は前しか見ていませんでした。
  - ② 彼は一切否定的な言葉を口にしませんでした。常に前向きです。途中、どうしようもなく疲れた時がありました。当然です。心拍数が下がらなくなってきました。10歩前後進むと、2分も3分もかけて息を整えます。そんな時、彼はこう言いました。「忍耐、忍耐。急いではいけない。祈りによって力を受ける。祈りこそ、力だ。自分には出来ないが、神に不可能はない。」そしてまた、進んで行きました。
  - ③ 彼の視点は、いつもゴールを見ています。しばらく進むと、すぐに、「地図を見せてくれ。」と言いました。持っていた地図を見せると、「残り〇〇マイルくらいかな。」と言いました。「俺は地図を見るのが好きなんだ。」と、何度もつぶやきました。その気持ち、本当に分かります。最後の方は、10分おきくらいに、地図を見ていたそうです。とにかく、ゴールに入ることしか考えていませんでした。
  - ④ 彼は、弱い人、年老いた人に大変優しい人でした。自分がどんなに疲れていても、障害者の人が目に入ると、励ましの声をかけていました。また老人ががんばって走っていると、手を振って挨拶を交わしていました。ハンディを負っているだけに、弱い人の気持ちが分かるのでしょうか。
- 午後2時前、大群衆が取り巻く中を、彼は栄光のゴールに飛び込みました。

その瞬間、大歓声と大きな拍手が沸き起こりました。感動の一瞬でした。最後の数百メートルを泣きながら付いてきた中年のご婦人がいました。彼女は、10キロにエントリーした人でした。

- その彼女が、「えらいね。えらいね。本当にえらいね。」と目を真っ赤にして言いました。それしか言いませんでした。彼女の言葉は、その場にいた多くの人の心を代弁していたようでした。
- この日、ボブさんは全身全霊を用いて「神に不可能なことはない。」というメッセージを伝えてくれました。多くの日本人が、それを目撃しました。
- いかがでしょうか。私はこの証を聞き、大変励ましを受けました。そして教えられたのです。ボブさんは、「栄冠を目指して走る」とは、どういうことかを教えてくれました。感謝です。そこで、もう1つ大切なことがあります。それは効率性の高い走り方をすることです。

## 2) 効率のよい走り方をする

- ランナーが目標に向かい走るうえで、大切なことがあります。それは無駄を省き効率の良い走り方をすることです。できるかぎり、服装を身軽にすることです。つまり軽装で走ることです。
- だれでもランニングをする際、荷物を背負い走る人はいませんね。軽装で走ります。しかしながら、多くの人々は人生で荷物を背負い走っています。その荷物とは、思い煩い、心配、不安、負債、悩み、そして罪等というものです。イエスは言われました。ヨハネ福音書  
14:1 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。
- 私たちの人生は、競技場で走るランナーのようです。私たちは効率的に走り方をすべきではないでしょうか。じつは、効率的な走り方をし、栄冠を目指し走れるように、イエス・キリスト様は助けてくださいます。そのために、イエス様は来られました。
- イエス様は、犯罪人がかかる極刑の十字架にかかられました。そして尊い血を流して死なれ、墓に葬られました。しかしイエス様は死の壁を打ち破り、復活されました。死に勝利されました。それは神の権威を現します。
- イエス様は、私たちの重荷を全部背負い、十字架上で血を流し、精算してくださいました。私たちの人生で不要な重荷（思い煩い、心配、負債、悩み、罪等）を背負ってくださったのです。
- イエス様が助け主として来臨されたのは、私たちが悲しみ、落ち込むためではありません。いいえ、神からの栄冠を得るためです。いかがでしょうか。あなたも、あなたの重荷をイエスにお預けになりませんか。そして軽装とな

り、栄冠を目指して走るランナーになれませんか。

ま と め

主 題：「一歩、踏み出す人生」

3:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。

1. ひたむきに前に向い走る
2. 目標（栄冠）を目ざして走る

- God bless you !